

# 第42代北部方面総監 井土川陸将着任

いどがわ かずとも  
**井土川 一友**

生年月日 昭和43年8月13日  
出身地 宮崎県  
最終学歴 防衛大学校35期

- 平成4年3月 第12普通科連隊
- 平成10年8月 幹部学校付
- 平成12年8月 普通科教導連隊第1中隊長
- 平成14年3月 中央業務支援隊付
- 平成15年3月 陸上幕僚監部防衛部運用課
- 平成18年3月 統合幕僚監部運用部運用1課
- 平成19年3月 陸上幕僚監部防衛部防衛課
- 平成22年3月 米陸軍戦略大学
- 平成23年8月 陸上幕僚監部防衛部防衛課防衛班長
- 平成25年8月 第43普通科連隊長兼都城駐屯地司令
- 平成26年8月 陸上幕僚監部人事部人事計画課長
- 平成28年7月 沖縄地方協力本部長
- 平成30年3月 北部方面総監部幕僚副長
- 令和元年8月 統合幕僚監部運用部副部長
- 令和2年8月 陸上幕僚監部人事教育部長
- 令和3年12月 第15旅団長
- 令和5年3月 第2師団長
- 令和7年3月 現職



第801号  
令和7年4月18日

統率方針  
「北方の誇り」  
要望事項  
「強靱」  
「信頼」

発行：北部方面総監部広報室

我が国防衛における最大の  
方面隊としての誇りを堅持

## 統率方針 「北方の誇り」

北部方面隊は、3月25日(火)、第42代北部方面総監井土川一友陸将の着任式を挙行了しました。  
井土川総監は真駒内駐屯地で殉職者慰霊碑に献花した後、札幌駐屯地での儀礼を受けます。着任式は札幌駐屯地体育館において行われた着任式では、北部方面隊の全隊員に対し統率方針として「北方の誇り」を、要望事項として「強靱」「信頼」の2点を要望しました。

令和7年3月24日付で北部方面総監を拝命した井土川です。  
末吉前総監をはじめ諸先輩が長年にわたりに築かれた精強北部方面隊の総監として着任する機会を得たことは大変光栄であり、北部方面隊の隊員諸官とともに任務にあたる事が出来ることを大変うれしく思います。

私の統率方針は「北方の誇り」です。  
北部方面隊は創隊以来、陸上自衛隊最大の方面隊として北日本の防衛を普遍的任務としつつ、冷戦崩壊後は国際活動や先進装備に係る部隊実験の中心的な役割を担い、現下においては国内外を問わず重要正面に必要な部隊を機動展開し任務を完遂できる部隊を錬磨し、国家安全保障の最終的な担保となる事が期待されており、北部方面隊は時代が如何に変化しようとも常に我が国防衛における最大の方面隊として国家・国民の期待に応え続けることが求められています。

北部方面総監として、我が国防衛における最大の方面隊としての誇り、すなわち「北方の誇り」を堅持し、その誇りを北部方面隊の全隊員諸官と共有し、与えられた任務を必ず達成する覚悟で指揮・統率する所存です。

そのための要望事項として諸官に2つ要望したいと思います。  
その一つは、「強靱」です。「強靱」とは部隊・

着任の辞(全文)

隊員が、いつ如何なる任務も完遂できる高い練度を保つことに加え、北部方面隊の全隊員が日々の隊務に生き生きと臨む状態を維持し続けることだと思えます。

このため、各級指揮官は、指揮官の最も重要な責務として、任務に基づき部隊・隊員の練度を最高度に高めると同時に、全ての隊員が自己の職務に誇りを持ち、日々の隊務にやりがい・充実感を覚え、将来に夢と希望を描けるような隊務運営を追求するとともに、隊員諸官一人一人は、服務の本旨を実践し、自ら目標設定し、その目標達成のために躍動し続けて欲しいと思えます。

2つ目は、「信頼」です。部隊の精強性の指標である団結・規律・士気の要は、上司・部下、隊員相互の信頼の強さにあります。

このため、各級指揮官及び隊員諸官は、常にお互いを尊重し合い、日々のあらゆる隊務を通じ、信頼に基づくチームワークを培い、仲間のために自己犠牲をためらわない強い絆で結束した健全な部隊を育んでもらいたいと思えます。

以上、着任にあたりその所信を述べましたが、我々北部方面隊所属の全隊員が日々の隊務で積み重ねる全ての努力は、国民の生命と財産を守り抜くことに直結していることを全隊員と共有するとともに、私自身、諸官の先頭に立ち、任務完遂に全力を尽くすことを表明し、着任の辞とします。



儀じようを受ける総監



方面総監部初度巡視

### 第41代北部方面総監

### 末吉陸将離任

3月21日(金)、札幌駐屯地において第41代北部方面総監末吉陸将の離任式が行われました。

末吉総監は、令和5年3月から約2年にわたり「所命完遂 先進」を統率方針として常に隊員の先頭に立ち北部方面隊を指揮・統率してまいりました。

末吉総監は3月24日(月)付で勇退、長きにわたる国防の任務を完了し、自衛官としての任務を終えました。



笑顔で見送られる末吉総監

冬季遊撃課程

過酷な状況を克服し任務を達成

冬季戦技教育隊（隊長 聖徳1佐）は、1月14日（火）から3月5日（水）までの間、各方面隊から集まった29名の学生に対し、第16期冬季遊撃課程を実施しました。

本教育は、積雪寒冷地における遊撃部隊隊員として必要な知識及び技能を習得させるとともに、必要な資質を涵養することを目的として、真駒内駐屯地、北海道大演習場、ニセコ演習場及びその周辺において行われました。

戦闘行動に特化した訓練を行い、2月25日（火）からの遊撃総合訓練は、高度な隠密行動技術や、伏撃など流動変転する状況での訓練でありましたが、高いスキー技術と「レンジャー隊員」として培った精神力でスキーやかんじき等を駆使し、全隊員が任務を完了しました。



き章を授与する隊長 聖徳1佐



帰還式



山地におけるスキー行進

令和6年度衛生科幹部等集合訓練 (第68回北部防衛衛生学会)

医療従事者としての情報共有

自衛隊札幌病院（病院長 川口陸将（当時））は、令和7年1月22日（水）北海道青少年会館コンパスにおいて、多くの来賓のご臨席並びに北部方面隊を中心に全国の衛生科隊員の参加を得て、令和6年度衛生科幹部等集合訓練（第68回北部防衛衛生学会・前段訓練）を担任・実施しました。

また、一般演題では衛生支援能力の向上に資する各部隊の取り組み及び成果について6個部隊から、次いで指定演題として札幌病院医官3名による過去の災害派遣、国際平和協力活動における成果等について発表があり、それぞれ質疑応答や内容に関する情報共有が活発に交わされ訓練は所期の目的を達成して成功裏に終了しました。



特別講演 井上2佐(体育学校)



優秀演題 飯塚2尉(5後支隊)

対空実射訓練

方面隊の対空射撃能力向上

方面隊は、2月21日（金）から4月15日（火）までの間、静内対空射撃場において、令和7年度第2次対空実射訓練を実施しました。

訓練は、各師団、各旅団及び第1高射特科団（団長 貴島陸将補）が担任し、各隷下部隊、各方面直轄部隊が参加し、87式自走高射機関砲（AW）及び12・7mm重機関銃の実射訓練を

それぞれ行いました。射撃においては、事前にシミュレーターを使用した追隨射撃を演練し、射撃予習を徹底する等、万全の状態を実弾射撃に臨むとともに、UAV飛行を模倣した目標に対する実践的な射撃を行い、所望の訓練成果を収めるとともに、各射手の練度向上につながりました。



87 AW 射撃



重機関銃射撃

バイアスロン日本選手権大会及び宮様スキー大会国際競技会バイアスロン競技協力

歴史と伝統のある大会に今年も協力

北部方面混成団（団長 平松1佐）は、2月24日（月）から3月3日（月）までの間、西岡演習場真駒内射撃地区において、バイアスロン日本選手権大会及び宮様スキー大会国際競技会バイアスロン競技協力を担任実施しました。

今回で96回目を数える宮様スキー大会は、バイアスロンのほか、ジャンプ、クロスカン

また、昭和41年の第37回大会からバイアスロン競技が正式種目となっており、北部方面隊の各部隊、海空自衛隊の各部隊、隊員が競技に参加しています。



射場構成



スタート前のタグ交付



ゴール直後の選手



ゴール後の介助

北部方面隊の活動はホームページ及び各種 SNS をご覧ください。チャンネル登録及びグッドボタンをよろしくお願ひします。

YouTube Instagram Facebook X HP 各SNSのQRコードとアイコン

# 令和7年度一般陸曹候補生及び自衛官候補生入隊式

## 国防を担う若者たちが入隊

方面隊は、4月6日(日)、方面隊各駐屯地において、一般陸曹候補生及び自衛官候補生の入隊式を行いました。入隊者は、まだ雪が残る3月下旬に、道内をはじめ全国各地から各教育担任部隊に着隊し、教官等の指導のもと、入隊式に備えて被服等の準備や裁縫、敬礼や行進等の基本教練を体得して入隊式に臨みました。

式では、初々しくも堂々とした入場や敬礼を披露するとともに、声高らかに服務の宣誓を行い、国防を担う隊員としての一步を踏み出しました。

また、入隊式に参加した両親に対し「同期と仲良く、立派な社会人として過ごしていきたい」という声も聞かれ、ご両親も感慨深い様子でした。

今後、新隊員は約3ヶ月にわたり自衛官



宣誓する新隊員



堂々とした入場



父兄が見守る中での式典

# 着任部隊長等紹介

北部方面總監部幕僚長  
陸将補 松本 英樹

前職 昭和44年生 徳島県出身  
教育訓練研究本部  
副本部長



第1特科団長  
陸将補 井上 互

前職 昭和46年生 千葉県出身  
第2師団副師団長



自衛隊札幌病院長  
陸将 森 知久

前職 昭和45年生 鹿児島県出身  
自衛隊福岡病院  
病院長



第7師団長  
陸将 武田 敏裕

前職 昭和42年生 愛知県出身  
西部方面總監部  
幕僚長



第2師団長  
陸将 大場 剛

前職 昭和43年生 山形県出身  
第14旅団長



東千歳駐屯地業務隊長  
1等陸佐 池田 幸博

前職 昭和44年生 佐賀県出身  
関西補給処  
桂支処長



北部方面音楽隊長  
2等陸佐 伊東 礼記

前職 昭和47年生 大分県出身  
中部方面音楽隊長



北部方面航空隊長  
1等陸佐 安達 弘典

前職 昭和54年生 島根県出身  
陸上幕僚監部  
装備計画部航空機課



第7師団副師団長  
陸将補 古内 弘樹

前職 昭和48年生 鹿児島県出身  
輸送学校長



第2師団副師団長  
陸将補 東峰 昌生

前職 昭和49年生 北海道出身  
陸上幕僚監部  
指揮通信システム  
情報部情報課長



遠軽駐屯地業務隊長  
2等陸佐 津國 孝広

前職 昭和50年生 京都府出身  
第26普通科連隊  
副連隊長



留萌駐屯地業務隊長  
2等陸佐 大嶺 和彦

前職 昭和52年生 鹿児島県出身  
第12後方支援隊  
副隊長



南恵庭駐屯地業務隊長  
2等陸佐 竹内 規高

前職 昭和51年生 静岡県出身  
西部方面總監部  
装備部



北部方面總監部付隊長  
3等陸佐 川瀬 省一

前職 昭和45年生 北海道出身  
訓練評価支援隊



鹿追駐屯地業務隊長  
2等陸佐 鈴木 善晴

前職 昭和45年生 北海道出身  
真駒内駐屯地業務隊長



美幌駐屯地業務隊長  
2等陸佐 生稲 学

前職 昭和46年生 北海道出身  
第4地对艦ミサイル  
連隊副連隊長



### 第235回 ~心の健康相談室~

#### 人生に潤いを与える言葉

人の過誤は宜しく恕すべきも、  
而も己に在りては則ち恕すべからず。  
己の困辱は当に忍ぶべきも、  
而も人に在りては則ち忍ぶべからず。

(「菜根譚」前集・165)

これは、「他人の過ちは許すのはよいが、然し自分の過ちは決して許してはならない。また、自分の辛いことはじっと耐え忍ぶのがよいが、然し、他人の辛いことは決して見逃してはならない。」というのです。

つまり、「人に接するには春風の如く、自らを慎むには秋霜の如くに」(「言志四録」ということではないでしょうか。

心の健康相談・カウンセラー 根本 和雄

